女と男（ひと　ひと）の情報誌

きらきら

編集、発行
平成24年４月発行
大洗町生涯学習課社会教育係
きらきら大洗ネットワーク研究会
Tel. 029-267-0230
Fax.029-267-1051

大洗から　元気を発信 !!

大洗町漁業協同組合女性部「かあちゃんの店」のみなさん。
津波で被災しましたが、見事復旧。この力強い笑顔は大洗の復興のシンボルです。

チャンスを分かち 未来を拓こう

（平成23年度内閣府男女共同参画週間キャッチフレーズ）

男女共同参画社会とは

豊かな地域社会を創るため、家庭、地域、職場など社会のあらゆる分野に男女が平等な立場で主体的に参画し、支え合い、責任や喜びを分かち合いながら様々な問題解決に当たる社会のことをいいます。

きらきらと輝く仲間

大洗町漁業共同組合女性部長
高橋早苗

私達「かあちゃんの店」は、7年前から女性漁業士4名を含め女性部70名の内、13名が手弁当を持って、干物やシラス干し、いわしの丸干しなどを作り露天で販売しました。暑い夏には汗だくに、寒い冬にはしもやけができました。

でも、漁家経営が厳しい状況にあるなか漁獲物の付加価値向上を目指し頑張りました。それが2年、3年と続けていくうちにお客さんが列を作り、品物が飛ぶように売れるまでになりました。その頃、食事処をやってみないかと町の漁協から話がありました。最初のうちは戸惑いもありましたが、話し合いを持ちながら、平成22年3月に完成し、4月18日に開店しました。

開店後には、テレビや新聞等のマスコミにも取り上げられたこともあり順調に売り上げを伸ばしてきました。

平成23年3月11日に起きた地震および津波等で、漁船の沈没、漁港施設の浸水、そして「かあちゃんの店」も破壊され、厨房機器やその他の物がだめになり、残ったのは崩れた外壁とヘドロだけでした。

でも、私達女性部は一致団結し難局に立ち向かって、少しずつ前に進み、協力と努力により6月1日に復興することになりました。しかし、風評被害に惑わされたこともありましたが検査に検査を重ね、安心、安全な魚を提供する為にも、かあちゃんの店はなくてはならないと思いました。

そんな中、平成23年度の茨城県表彰において功績団体として表彰されました。大洗町長からも町の知名度向上・漁業振興発展の功績で表彰状を頂き、今まで頑張ってきた努力の甲斐があったんだなあと思い、これからも更に頑張っていく励みとなりました。

今後もかあちゃんのパワーで浜に笑顔と元気、大洗町の活性化を、そしてなお一層の絆を深め頑張っていきたいと思います。

放射線アドバイザーの話を聞いて

2月29日、公民館視聴覚室において、放射線アドバイザーの方から、放射線に関するレクチャーがありました。

福島第一原子力発電所の事故以後、シーベルト・ベクレルといったこれまで耳に馴染みのなかった言葉や数値が身の回りにあふれ、「いったい、何をどこまで心配し、信用したらいいのだろう」と感じていました。おりしも、町の広報誌の臨時号が発行され、町内における300mメッシュマップの空間線量率の測定結果が公表されました。これにより、私たちが住んでいる地域の数値を客観的に知ることができました。

私たちが日常口にする食品類については、厚生労働省が放射性物質に関する基準値を大幅に改訂したため、市場に出回っているものは心配ないとのこと。むしろ注意すべきことは、外部被爆とのことでしたが、対策としては春先の花粉症対策とほぼ同じで、玄関先で埃をよく払い、室内をこまめに掃除するなどのアドバイスがありました。

低線量であるならば、ゆっくら健康館のドールストーンや秋田の名湯玉川温泉などの効用はすでに周知のとおりです。↖

東日本大震災後の節電大作戦

震災後、発電能力が落ちる中、電力需要が供給を上回ることによる大停電の心配から全国的に節電の必要が叫ばれた。そこで、私達は5月の初旬、節電について話し合い、各自ができる節電に取り組むこととし、「いばらきエコチャレンジ2011」に応募した。入賞には漏れたが、前年8月と比べると参加者合計で25%減を達成した。

グリーンカーテン

ツルを伸ばす植物のゴーヤ、フーセンカズラ、パッションフルーツ、琉球朝顔、おかわかめ、坊ちゃんかぼちゃ、をそれぞれが選びグリーンカーテンを作ることにした。

○結果からわかったこと

・早く植えると、早々と葉を繁らせて肝心な真夏に枯れるものもある。

・朝顔などはツルがどんどん2階まで伸び、中間の葉がつかない。伸びている先端を横に伸ばし、面にする必要がある。

・プランターに4本植えたら多すぎて、葉が密集してしまい、昼間なのに電灯をつけなければならなかった。

・ゴーヤは、昼間は葉がしおれる。

・パッションフルーツは花がきれいで昼間も葉がツヤツヤしている。

・考える以上に水やりが必要だ。

↙改めて、自分たちの廻りの状況・環境を正しく理解・把握し、「放射線を正しく怖がる」ことが大切と認識させられました。

♪♪大洗町復興支援 チャリティーコンサート

1月8日、震災で長い間使えなかった大洗文化センターには、大勢の人々が来場していました。

コンサートは、大洗町出身のフルート奏者大山真理佳さんによる「王宮のコンセール」でスタートしました。それは深く心にしみこむ曲でした。同じく大洗町出身ソプラノ歌手の川上茉梨絵さんによる「早春賦」では思わず涙してしまいました。素晴らしかったです。大山さん、川上さん、ピアノのエッカートベーゲマンさんによる「麗しい4月が」は、心がほぐれうっとりと聞き惚れてしまう曲でした。最後に全員での合唱「ふるさと」では、私もつい大きな声で歌ってしまいました。

バックスクリーンに映し出されていた大山さんのお父様が撮影された大洗の風景は、私が毎日見ていた美しい海でした。

久しぶりの音楽会は私を生き返らせてくれました。

2時間半近く、小さな子どもたちがよく静かに聴き入っていたことにも感動しました。

茨城県女性団体連盟のつどいに参加して

平成24年1月25日（水）茨城県女性プラザ（レイクエコー）に於いて、ハーモニーフライトいばらき2011報告会と茨城県警察音楽隊演奏、午後には、チター演奏者内藤敏子さんによる演奏と「生命の尊さを考える」と題する講演がありました。

スイス留学のお話は特に印象深く、食材を無駄にしない使い方や、観光客の為に土・日は外に洗濯物を干さない、ベランダのお花の手入れにはご近所で注意し合い町の美観を大切にするなど興味深いお話でした。

見学と研修をしました

☆昭和産業㈱工場

神栖市にある巨大な食品工場は東京ドーム5個分の広さで、小麦粉、食用油、ブドウ糖を製造しています。原料は主にアメリカ、カナダ、オーストラリアなどの海外から輸入しており、この工場では、製品の8割が業務用とのことです。

使用する電力は、震災前は電力会社の電力でしたが、震災後は安定的な電力確保と節電の必要性もあり8割を自家発電、2割を電力会社から買っているとのことです。

☆風力発電所

神栖市波崎の海岸にある洋上風力発電所と海岸沿いにある他の数十基の風力発電の風車を見学しました。十数年前、関西地区で見学したものと比べて、音が静かで、付近に人家もなく、人への低周波の影響も少ないだろうと思いました。建設のコストや維持管理の問題等があると思いますが、環境に優しい、原子力発電に依存しない自然エネルギーへの取り組みを心強く感じました。更なる新エネルギー（太陽光・熱、風力、潮力、地熱、バイオマス等）の開発を望みます。

・考える以上に水やりが必要だ。
・ツルが2階まで伸び、いつもと違う景色を楽しめた。

途中経過は携帯のカメラで確認しあった。

待機電力を減らす

○各家庭で工夫したこと
・電気製品のコンセントをこまめに抜いた
・長時間使う電球をLEDにした。（14箇所で2万円）
・冷蔵庫を買い換えた（中型2台を大型1台に）
・テレビを最新型の省エネタイプにした。
・ガーデン用ソーラーライトを屋内で使う。（夜間の豆球以上の効果あり）
・窓には、よしず・すだれを活用した。
・多灯照明器具の蛍光灯、電球を間引いた。
・炊飯器での保温をやめ、米は一度に炊き小分けにして冷蔵庫へ。
・茹でる、蒸す料理に、電子レンジを使う。
・米を鍋で炊く。
・ガラスのふたを使い、ふたを開けずに中の様子を見られるようにする。
・麺等は差し水をせずに火加減を調節し温度を下げ、早めに火を止め蒸らす。
・圧力鍋を使い、料理時間を短縮する。
・煮込み料理など、新聞紙、毛布で包み保温料理をした。

など、各自工夫しながら、無理のない範囲で節電に取り組むことができ、今後も継続していきたいと思った。

大震災復興を点から線へ 観て聴いて感じて傾聴の大切さ

大洗町ボランティア連絡協議会
会長　関根正彦

昨年の大震災当日、近所の人達を広場に招集して安全を確保し、夜半に避難場所の大貫小体育館へ移動して、避難所運営を手伝いしました。その後、町の社会福祉協議会で災害ボランティアセンターの立ち上げから運営まで16日間連続で活動しました。町の復興が進む状況を見て、5月連休からは、東北3県での活動に参加しました。岩手県には東北新幹線で、宮城県には那珂市より災害ボランティアバスで、福島県には自家用車を利用して出向きました。

地元大洗町のボランティア連絡協議会の活動は、小学校で総合的学習の時間に、障がい者体験学習を指導して11年目になります。シニア車いす、点字、アイマスク体験を行って、介助方法も大事ですが介護される人の気持ちを大事にと指導しています。

震災後の小学校での講義では、体験後写真等で被災地の状況や同じ年頃の小学生の通う仮設小学校や仮設住宅の生活を説明し、夏海小3年生14名に手紙と写真を書いてもらい、岩手県大槌町の吉里吉里小へ直接持って行き手渡しました。吉里吉里小の校舎には、被災した安渡小他3校もバスで通学しています。先生の配慮で各小学校に手紙を渡してもらい、3校より返事をいただき手紙のやり取りが始まりました。大貫小、磯浜小のそれぞれ4年生には宮城県東松島市に、「土のう袋」にメッセージやイラストを書いてもらい、300枚を持参し、現地で撮ってきた写真を見ながら被災地の復興状況を話しています。

現在、私は宮城県災害ボランティアバスで参加を継続しています。機会があれば、被災者の方との触れ合いから、観て聴いて感じて傾聴し心に残った事などをぜひ皆さんにお伝えできればと思っています。

夏海小3年生から励ましの手紙

安渡小3年生からの返信の手紙

大貫小4年生がメッセージをかいた土のう袋

～きらきら大洗ネットワーク研究会員募集～

お問い合せ ☎ 267-0230
生涯学習課　社会教育係

きらきら大洗ネットワーク研究会の「きらきら」は、海(うみ)・女(ひと)・男(ひと)のダイナミックなかがやきに夢を託して名付けました。

測ってもらいました

町が希望者に行う一般家庭の空間線量率訪問測定を、きらきら大洗ネットワーク研究会会員が希望し、自宅で実施しました。玄関、庭、希望箇所で測定しました。

居住地区	測定箇所		
	玄関	庭	希望箇所
祝町地区	0.102	0.118	0.118(地表面50cm)
磯浜地区（磯）	0.133	0.089	0.099
磯浜地区（五反田）	0.102	0.104	0.116
大貫地区	0.102	0.104	0.107

地表面から1mの位置で測定　単位（μSv／h）（マイクロシーベルト／時）

編集後記

私たちのメンバーの一人が平成23年度春の叙勲で瑞宝単光賞を受賞されました。誠におめでとうございます。

これからも、「きらきら」の仲間との和を大切に活動していきましょう。